

産業新聞 2022.01.04



権田金属工業社長 権田源太郎氏

よく考え、よく見ながら



(後列中央) 社長就任後、懇親会で職場仲間と

「よく考え、よく見ながら経営に取り組むことの大切さを伝えることで後継者を育成したい」と意気込む。その抱負からは自身の長年にわたる経験を基に築き上げた経営観が透ける。

1973年、トーメン(現豊田通商)に入社。繊維や銅電線の営業部門に携わった。入社当初は見る内容が多く、時には怒られることが多かったが工夫しながら懸命に習得したという。この時

「経験だった」と振り返る。
78年に権田金属工業に営業担当の取締役として入社。初めて役員として人を使うこと、決断することが求められた。不慣れなため失敗もあったが、経験するうちに考え方などが変わり徐々に乗り越えていったという。
83年に社長に就任してからもバブル崩壊やリーマン・ショック、東日本大震災など多くの難題に直面。需要構造の変化への対応に追られたが、その中でも経験から時代の流れを捉えて克服した。今も新規需要を模索し、「実現に向けて調査を進める」と前を向く。(50年2月6日生まれ、神奈川県出身)

日本貴金属マーケット協会代表理事

池水雄一氏



はど、毎朝20時離が8000キロ。4年12月から1年45才から始め生活の中心だ。挑戦し続ける。甲1800キロをソソ42・195見るのに一日かかるが、ゴールした瞬間の「達成感や幸福感は何物にも代えがたい」という。以前の運動は週1回のテニスやスポーツジム。ランニングへの興

走る仲間「人生の宝」

味は偶然た
道具を必要と
どこでもで人で完結す
れた。しば
間と一緒に
た。自ら立
ニシクチ一
は、現在4
る。年齢や
れ異なる仲
「人生の宝
還暦を迎
は変わつて
や仕事も妻
と実感がわ
まだ人生をさ
ける。(62年
れ、兵庫真